



紺碧

調布稲門会 会報

2023.1 第57号

年2回(1月、7月)発行

事務局 石田欽也方

Tel 080-1021-9105

Fax 042-487-6872

E-mail toumonkai@gmail.com

URL (HP) <https://tohmonchofu.jimdofree.com/>

編集責任者 潮田 健太郎

ウィズコロナでのイベント

企画の工夫と参加者皆様のご協力で行えることからやってみました

観月会

編集部 原田敦夫 (1977 法)

コロナ禍の影響で、久しく開催出来なかった観月会がやっと、10月1日に開催されました。参加者は総勢25名。新入会員やご夫婦での参加もありました。会場は品川通り沿いのイタリアンレストラン「トラットリア Timo」。山田会長による参加者の紹介や抽選会なども織り込みながらの楽しい歓談の場となりました。

感染症予防対策を取りながら実施したため、席の移動の制限があり、校歌斉唱なども出来ませんでしたが、久しぶりの開催とあって再会を懐かしみ、場は大いに盛り上がりました。最後に全員で記念撮影を行い、またの再会を期して名残を惜しみながらの散会となりました。



ワークショップ「アニマルシンキング」

幹事長・組織活性化委員長 石田欽也 (1980 商)

10月9日(日)市民文化会館たづくりにおいて、市内在住の校友にも告知して、久々の知的なイベントを開催しました。講師の佐藤昌義氏は、有名企業で講師や顧問を務め、他大学卒でありながら早稲田に親近感を感じて、当会に入会されました。

アニマル・シンキングは、ユダヤ人が開発した、楽しみながらアイデアを引き出す発想法&課題解決手法で、動物の「比喻(メタファー)」を発想のヒントに使い、原因探求をせずに徹底的に「ありたい姿」を追求するというものです。

「今までにないレストラン造り」という演習では、参加者から泉の如くアイデアが出され、佐藤氏をして「早稲田の卒業生は吸収力が高く優秀」と言わせました。終了後のアンケートによると参加者全員が本企画を高く評価しており、主宰者としてホッとしました。



ウォーキング同好会 & キテネ コラボ企画

ブラ早稲田

何か特別な事が無いと一人では中々行かない
そんな母校の近辺を散策しよう



原田敦夫

盛夏の8月6日、新宿駅西口集合、「早稲田行き」のバスで、明治通り、理工学部の校舎横、早稲田通りから大隈通りへと思い出深い道筋をたどって正門前へ到着。

まずは、都電早稲田駅を越えた所にある、熊本藩の下屋敷が1975年に文京区に移管された肥後細川庭園と松聲閣を見学。松聲閣の

部屋は、安価で借りられ、ゼミで利用した人もいろいろ。広大な敷地と建物を見るにつけ、室町時代から現代まで生き抜いてきた細川家の強かさ、懐の深さが印象付けられます。



次に大学構内へ。夏休みだがオープンキャンパス中のため、現役学生に加え志望する高校生やその家族やらで賑やか。

2018年開館の1号館1F「早稲田大学歴史館」で、途中参加組も合流して見学しました。

懇親会は正門近くのハワイ料理「イル・デ・パン」。感染予防策を敷きながらも大いに盛り上がりました。母校の校内や周辺を散策すると学生時代の思い出が鮮やかに蘇ってきます。参加者は其々の思い出を噛みしめながら帰路についたのでした。

ブラ多摩モノレール

童心に還って、モノレールに乗る、動物に癒される、締めは渋めに、高幡不動尊お参り&開運そば



潮田健太郎(1977 理工院)

11月27日、絶好の秋晴れ、参加者7名は9時25分、京王多摩センター駅に集合。まずは多摩市立グリーンライブセンターへ。ピラ

ミッドギャラリー(温室)には、観葉植物、古代インディオが染料に利用したベニノキ等があり、隣接するライブホールでは環境や植物に関する市民セミナーが開催中でした。秋薔薇のグリーンライブガーデンを散策した後、多摩モノレールに乗って多摩動物公園駅へ。紅葉の多摩丘陵の遠景に真白き富士山の頂、期待通りモノレールならではの眺望です。

多摩動物公園は広々しているので動物園特有の匂いも殆ど気になりません。様々の動物に見入ってしまい、時がたつのを忘れましました。ランチはコアラ広場で。そして高幡不動駅へ。萩原稔さんが合流。高幡不動尊を参拝。色鮮やかな五重塔が傾きかけた日に輝き、境内には七五三の家族連れもちらほら。開運蕎麦に備えてお腹を空かす為の参拝でもご利益はあるでしょうか。

名物開運蕎麦は参拝前は長蛇の列でしたが、殆ど待つことなく入れました。美味しいとろろ蕎麦、明るい店員さん、いいお店です。今回の企画は、わたくしが「秋の好日にモノレールに乗ったら気持ちいいんじゃない」と言い出したのがきっかけで、ウォーキング同好会とキテネがコラボ企画して下さいました。思った通り、みんなで秋を満喫できました。



企画担当は私です

コロナ禍に影響されながらも、ウォーキング同好会では『①深大寺&神代植物公園』、組織活性化委員会と共催の『②ブラ早稲田』、『③ブラ多摩モノレール&動物園』(ブラタモリのオマージュ)を催行しました。①は食事の**3密回避**ができず、②回目は**ルール厳守の会食**にしましたがヒヤヒヤ・ハラハラ場面発生。③回目にして『大変よくできました🌸』の域に見事に達致しました！ やればできる私たち！！

大事な**日程の確保**は、私の根拠無き楽観でいつも遅れがちで後から慌てています。行き先の**選定**も重要です。以前の遠出は、歴代リーダーの**綿密な下見**あって

ウォーキング同好会リーダー 天野凡子(1981 文)

の実現でした。最近、体力的に遠出は困難とお声もあり、**活動方針を検討する時期**が来ているように感じています。あとは**当日の天候**。お天道様のご機嫌次第で毎回ドキドキですが、結果オーライの強運です。

初参加大歓迎です。お気軽にご連絡ください。常連の皆さまも引き続きどうぞご最真に。

余談ですが、私の当同好会歴は2003年5月の『東京下町散歩』が最初でした。先輩方と街や自然を歩く事が、出不精の私には思いがけず楽しくて、気づけば足掛け20年。



校友会関連イベント

三多摩支部大会

編集部 川嶋菊枝 (1983 文)

9月4日(日)、ホテル日航立川において、コロナ禍のため3年ぶりに支部大会が開催されました。三多摩の26の稲門会から216名が出席、当会からは山田会長以下10名が出席しました。

第一部では、開会の辞に続き、田中愛治大学総長・校友会会長の「世界で輝く WASEDA」を目指す改革についてのビデオメッセージ、次いで活動報告が行われました。

第二部では、モダンジャズ研究会 OB バンドのライブ演奏と、主に日本のラグビーについての座談会に続いて、応援部のアトラクションがあり、校歌斉唱で締め括られました。感染対策のため懇親会はなく、コーヒーの提供のみでしたが、3年ぶりであって、そこそこで歓談の輪ができていました。



ブラタモリならぬ「ブラ稲門祭」

幹事長・渉外委員長 石田欽也

「ブラタモリ」ならぬ「ブラワセダ」の第2弾「ブラ稲門祭」を企画、山口泉、萩原稔、石田欽也が10



月23日、稲門祭のキャンパスをブラブラしました。手始めに稲門祭の裏方である実行委員の大浦広己氏、嶋田浩一氏を激励、記念撮影。快晴無風という絶好の天候、コロナ禍は終息していないものの3年間分まとめて挙行されたホームカミングデーの賑わいで、キャンパスは人に溢れ活況を呈していました。

私達は様々なイベントを尻目に、模擬店を冷やかに、「村上春樹ライブラリー」「演劇博物館」で格調高い芸術に触れ、キャンパスを闊歩しました。唯一の心残り、懐かしの金城庵が長蛇の列で入店できず、一杯やりながら天井を食す目論見が頓挫した事でした。ともあれ、多くの人々が行き交う姿を目にするにつけ、ほのぼの豊かな気持ちになりました。本当に楽しいブラブラでした。



会長年頭挨拶

山田和子(1974文)



あけましておめでとうございます。
 昨年暮れの FIFA ワールドカップでは日本チームのまだ見ぬ世界へのひたむきな挑戦に日本中が歓喜し、元気を貰いました。皆様、その余韻に浸りながら良い正月を迎えられたのではないのでしょうか？
 オミクロン株で幕を開けた昨年は、コロナ禍も3年目となり、接種も進んだ事で世の中は落ち着いてくると期待していました。ところが2月のロシアのウクライナ侵攻で、のどかな日常がある日突然戦火

にまみれる状況を目の当たりにし戦慄が走りました。
 その後の世界の変化の大きなうねりの中、将来を担う若い世代を可能な限り応援していくことは継続していきたいと思っています。
 昨年は小規模でしたが設立40周年記念も兼ねた総会などの行事はどうか開催出来ました。本年も、創意工夫し皆様方にわくわくして頂ける活動を行っていく所存です。
 Every day is a new day. 今年もご一緒に新しい一頁を作ってまいりましょう！

同好会活動再スタート

ゴルフ同好会秋のコンペ 山口泉(1971商)

9月13日、川崎国際ゴルフ場で3組12名が熱戦を繰り広げました。芦澤幹事のご尽力により、2020年10月以来です。好天でしたが、山あり、谷ありの難コースでスコアを崩す選手が多い中（特に筆者は酷かった）、当会最長老（31商卒）の望月さんが力強いショットにて、素晴らしいスコア（グロス95）で優勝されました（稲門会の老人パワー健在！）。

春と秋のコンペの他、調布三田会との合同コンペ（現在休止中）があり、春のコンペは来年3月の予定です。年齢、性別、腕不問、是非ご参加下さい。

麻雀同好会 4年7ヶ月ぶりの例会 石田欽也

10月30日（日）小島町の「天龍」で感染症予防対策を十分に講じ開催。8名で2卓を囲みました。

久しぶりのリアル麻雀故か、ツモが左に回ると言う“チョンボ”と言うべき珍プレーが登場するなど“ごちない感”が紛々でしたが、真剣な中にも和やかなに対局を楽しみました。4回戦で、優勝石田欽也、準優勝望月秀雄、三位河野瑠美でした。望月氏と河野氏は大ベテランの風格、流石の所作立ち居振る舞いでした。お歳なのに（失礼！）、頭キレキレ、脳みそ満タン、惚けの気配もありません。石田は世話人なのに優勝とは「世話無い」って感じ。小柳ルミ子もどきの”引き”の良さでクズ配牌を好手に育てあげ、3、4



回戦でまくり栄冠を勝ち取りました。
 牌をツモる感覚、“リーチ一発ロン”の宣言・咆哮と同時にドーパミンが脳内に溢れる快感、リアル麻雀は格別！今回不参加の会員も次回はヨロシク。

クッキングパパ奮戦記 蘆沢友雄(1974理工)

クッキングパパは毎月第一土曜の午前に西部公民館で行っています。11月は西部公民館の文化祭と重なったため6日（日）に開催。当日は文化祭の一環で、3名の体験参加があり、会員含め計8名で行いました。文化祭ということで、調理風景をビデオ撮影し、館内2か所の大画面で来館者に披露しました。

画面を見た人からは、「味見をろくにしないのに、おいしいのかしら」とか、「これだけであれば私がいなくなっても大丈夫そう」とかの感想を戴きました。

毎年文化祭では80食ぐらい作って皆さんに振舞いますが、今年はコロナ禍のため中止。来年の文化祭では、我々パパ連合の実力を評価いただきたく、楽しみにしてして下さい。

献立は、芋の煮っころがし、ピリ辛じゃこ白菜、ゆるふわかにかま玉あんかけ、砂肝の辛味漬け。

コートは「第二の青春」真ただ中！

テニス同好会代表 保科哲也(1970法)

宮本輝の小説「青が散る」は、大学のテニス部の若者達がテニス、友情、恋を通じての青春の光と影を見事に描いていますが、テニス同好会でも、テニスを愛するオールドボーイやオールドガール達が「第二の青春」の真ただ中にいます。

毎週月金の午前中、市営多摩川コートと深大寺コートに分かれ、5～13人がテニスを楽しんでいます。月に8回も参加する人もいれば、1、2回参加の人も。

会員は約40人。多くが50～80代。たまにアラフォ



一の女性達も参加します。最高齢は89歳の川島義幸先輩ですが、その恐るべきパワーと元気さは、「人間国宝級」と讃えられています。

ただ、会員の多くが、病気やケガを患っていて、ガンサイバーも数人、人工心臓の男性も。腰痛や膝、肩、肘を痛めている人も多く、最近、健康系の雑誌に

よく取り上げられる脊柱管狭窄症も確か2人。白内障手術をした人は5人以上。脛（スネ）に傷を持つ人は数あまた。

体力の衰えを年々感じながらも気力でボールを追いかけ、試合後は笑顔のノーサイド。「自由闊達にして愉快なるテニス同好会」が永遠に続く事を願っています。

Discover Food

山田和子



2021年3月までの活動報告 (P30~32)

嬉しいニュース！

2020年10月より開催してきた「学生応援フードパントリー調布」が「調布市生活困窮者自立

独り暮らしで生活が苦しい中、淋しい時が多くありました。そんな中こんなに温かい行事がある事に驚きました。これからも頑張ろうと思えました！」

逆に元気をもらっています。早大留学生も参加。これからも暫くは学生応援フードパントリーを継続していく所存です。

2022年度より当パントリーは調布稲門会内ではDiscover Foodの活動となりました。引き続きご支援を頂けると嬉しいです。

地域貢献・福祉活動

福祉まつり

萩原稔 (1980教育)

12月3日から4日、調布市福祉まつりが3年ぶりに開催されました。しかしながら新型コロナウイルス感染予防対策のため今回もバザー販売は取りやめ、福祉団体を中心とした手作り品やお菓子類の販売に限定されました。従来は市民でごった返す駅前広場の会場もこじんまりとした様子でした。

調布稲門会では福祉まつりの運営資金や福祉団体への資金配分に資する協力金の寄付活動、並びに会員皆様への電子データ版ポスターによる周知活動の参加となりました。新型コロナウイルス感染次第ではありますが、次回こそは皆様との親睦を深めながらの福祉まつりの参加を企画したいと思います。

多摩川クリーン作戦

天野凡子

11月13日実施。田中副市長からは、「スポーツやレジャーに活用できる美しい河川敷は調布市民の財産になっています。」とのご挨拶がありました。清掃に入ると大きなゴミは殆ど無いので、川岸の草むらとグラウンドの堺辺りを注視して進むと、偶に空き缶やたばこの吸い殻・包装フィルム等が見つかります。

何年もクリーン作戦に参加して、この小さなゴミをそのままにしない事が、多くのポイ捨てを防いでいるのだとリアルに感じるようになりました。また、今回も大学への告知を見て理工学部2年の男子学生の参加がありました。こちらの問いかけに応えながら私の5倍ゴミを集めてくれました。爽やかでした。

野川クリーン作戦

萩原稔

11月26日、朝方に降り出した雨にも拘わらず、6名が国領駅改札口に集合。日頃の皆さんの善行よろしく、活動開始の時間には予報に反して傘を開くこともなく、中島橋を起点に上流へ往復50分をかけて、野川のせせらぎ、川沿いの木々の紅葉、川べりに咲く秋の草花に心地良さを感じながら清掃に励むことができました。市民の憩いの場として親しまれている野川ですが、草むらの陰には空き缶、煙草の吸殻等が散見され、あらためてクリーン作戦の必要性を感じた次第です。終了後は駅近のコーヒョップで各自の近況を話題にしばし歓談し、お開きとしました。



調布稲門人

第10回 川島義幸さん(1959年 商学部卒) 取材・構成 編集部・原田敦夫

「強い好奇心と多趣味で卒寿（満89歳）の青春を愉しむ」



秀子夫人とツーショット♡

川島義幸さんの日常は、89歳になった現在も活力に溢れている。その大きな要因は好奇心の強さとそれがもたらす趣味の多さだろう。その

趣味は、テニス、太極拳、輪投げといった体を動かすものから、水彩画や囲碁の様に手先や頭を使うものまで幅広い。今回はその驚嘆すべき生活を覗いてみたい。

まずは、川島さんの定年までの人生を紹介しよう。

川島さんは、昭和8年（1933）に島根県大田市で八人兄弟姉妹の五番目に生まれた。市内には世界遺産の石見銀山や国立公園の三瓶山や、温泉津温泉もある風光明媚な土地である。生家は呉服商を営んでいた。丁度学制の切替え時期で、旧制の大田中学を経て新制の大田高校を卒業、中高時代は美術部に所属していた。

家を継ぐ予定だった長兄が戦没してしまい、父上から「お前が一番商売に向いている」と後継に見込まれた川島さんだが、それを押し切り青雲の志を持って早稲田大学に入学した。父上は進学に反対だったが「大隈重信公の創設した早稲田大学ならいいだろう」と最後には認めてくれたそうだ。



入学後の下宿の大家さんは、戦前はコートを持っていた程のテニス好きで、その影響もあり軟式テニスに打ち込んだ。テニスとアルバイトに明け暮れる大学生活だった。

卒業後は、車のディーラーに就職した。輸入車やいすゞのヒルマン、富士重工のスバルなど様々な車種を扱う会社だったが、丁度スバル360の目覚ましい普及期に当たり、「スバル360を売りまくった」そうである。そこに17年間勤務した後、全く畑違いの食品卸会社に転職した。今度は「十割そばをスーパーなどに売りまくった」そうだ。そこに19年間勤務し平成7年（1995年）に定年退職を迎えた。

川島さんが創立2年目の調布稲門会に入会したのは、

まだ仕事が現役中の昭和57年（1982）。ご近所だった大先輩富沢慎哉副会長（故人）の紹介による。2代目の笠原昌夫会長（故人）時代には、会計幹事、副会長、代議員を歴任、早稲田大学創立125周年の募金活動や調布稲門会の会員増強等の業務を担った。

長く仕事中心の生活を送った川島さんだが、定年後は仕事から解放され、趣味や学びが次々と広がった。それは以下のように展開していく。

調布稲門会のテニス同好会には定年後すぐに入会した。現在は別のサークルにも参加し、月に10回程コートに立つ。テニスの楽しさは、何よりも真剣に取り組んで勝負に拘ることだと言う。「山椒は小粒でもピリリと辛いゾ」という思いを胸にゲームをしているそうだ。特に女性とペアを組んだゲームはモチベーションが上がる。帰宅後は以前通っていたテニススクール時代のノートを開いて復習を行っている。グランドストロークが得意で、「最近腕が上がった」と褒められる。そして仲間達との歓談も楽しい。

漢字検定準1級も取得。調布シルバー人材センターに登録し仕事をする上で大いに役に立ったそうだ。

同じ頃に稲門会の囲碁同好会にも入会し、約40年間続けた結果、現在は二段の腕前である。また暫く後に太極拳同好会にも入会し、先輩の故中野完二師範の指導を受け楊名時太極拳の指導員の資格を取得した。

こちらのキャリアは33年になる。



楊名時太極拳 指導員
(平成元年 1月入会)
1989年



川島さんのイチオン
プロのモデルさんだそうです



故郷の漁港の風景

平成11年(1999)には、菊野台地域福祉センターの絵画教室に入り、学生時代依頼久し振りに水彩画を再

開した。同時に通信制の絵画教室でも学び、更に調布美術協会、調布水彩画会にも所属し、年に5回程展示会に出展している。今年5月の町田稲門会主催の「エスペレ展」にも出展を予定している。

老人クラブの絵画サークルにも所属しているが、そこで輪投げのサークルも立ち上げ、専門員として活動している。輪投げは頭と体を使うので、とても健康に役立つと感じている。

これだけの趣味を並行しているのも、日々は極めて多忙。そんな生活を支えてくれるのが、長年連れ添っている奥様である。偶然だが、奥様の生まれは早稲田鶴巻町だそう。奥様も稲門会の準会員で、「アースカフェ」などのイベントに参加されている。また、「ウォーキング同好会」「観月会」など稲門会のイベントには夫婦で参加するようにしているとのこと。

筆者は、テニス同好会で川島さんと一緒にいるが、印象的なのは、試合に勝った時には誰よりも喜び、

負けた時には真剣に悔しがる姿である。そして、負けた時は暫し考え込んで対策を練っている。その一方、プレイの合間や歓談の折に発する言葉は、ユーモアのセンスに溢れている。その姿は、愛読しているというサミュエル・ウルマンの詩「青春」を体現しているように感じられる。日頃心掛けているのは「無用なストレスは溜めず、前向きに考える事」だそう。

人の健康状態や生活環境は様々なので、誰もが川島さんのように過ごすということは難しいかも知れないが、その心の有り様や物事への取り組み方には大いに参考になる点があると思われる。これからも人生の先達としてお手本を示し続けていただきたいと願う次第である。



和気藹々の取材風景

集まり散じてまた集まり **新入会員紹介** 敬称略 ご本人の希望により記載しない項目もあります

加藤 智子 第一文学部 1988年 筑波大学附属高校
趣味：絵画、登山、旅行、露天風呂、カラオケ

「地元で知り合いの輪を広げたいと思い入会しました。凝り性で、油絵は2年前、銀座で風景画の個展を開きました。登山は百名山を87座登頂しました。学生時代にやっていた軟式テニスもまたやりたいです。が、身体がついていくか…」

田中 幹也 第一文学部 1981年 千葉県立長生高校
趣味：ゴルフ

「調布稲門会がある事を今まで全く知りませんでした。かなり遅ればせながら、入会させていただきます」

関 勝一 商学部 1990年 神奈川県立希望が丘高校
趣味：歌、日本酒、ドライブ、料理（始めたばかり）

「どうぞよろしくお願いたします」

本松 晋作 理工 1998年 早稲田実業学校 高等部
趣味：旅行(今年の夏休みは北海道と新潟へ)
ガーデニング(花壇の手入れやバルコニーのウッドタイルのメンテナンスなど週末に楽しんでいます。)

「22年の4月に調布に引っ越してきました。地元の良さを色々教えわりつつ交友関係を広げたく皆様どうぞよろしくお願いたします！」

原 慎一郎 社学 1981年 神奈川県立光陵高等学校
趣味：バスケット、ゴルフ、ソフトボール、海外旅行

「横須賀市から結婚を機に妻の地元である調布に移り住み39年になります。上ノ原小ミニバスのコーチとして25年、ソフトボールチームに参加して29年が経ちました。土日が忙しい元気なオヤジです」

吉田 友哉 政経 1995年 早稲田実業学校 高等部
趣味：読書（シャーロック・ホームズ）、サッカー（アーセナル）、料理、旅行

「早実中から大学まで10年間早稲田に通いました。その後、フィリピン、アメリカ、イギリス、ガーナなどの駐在の合間に荒川線早稲田駅近くに4年程住んでいました。2017年調布に引っ越してきました」

吉田 由紀 第二文学部 2002年 愛知県立明和高校
趣味：料理、旅行、花（山野草）、書道、卓球

「2年間、インドシナ地域史を学ぶため社会人学生をしておりました。国際協力の仕事で、名古屋、ベトナム、札幌、ガーナへの転勤を経て、5年前、調布に居を構えました。共に作（創）り、食卓を囲むことが大好きな食いしん坊です。」

堤 京子 準会員 桐朋女子高校
趣味：ピアノ、声楽 「よろしくお願致します」

訃報 大道信敏氏

原田敦夫

調布稲門会のレジェンド大道信敏さんが2022年9月9日に102歳で逝去されました。

大道さんは、佐賀商業で甲子園に出場し、その後早稲田大学、大昭和製紙の野球部で活躍した名内野手でした。昭和24年の第20回都市対抗野球大会決勝で「火の玉投手」と呼ばれた星野組の荒巻淳投手から打ったホームランは、未だに語り継がれています。惜しくも試合には敗れましたがチームは準優勝し、個人では準優勝チームで最も活躍した選手に贈られる久慈賞を受賞しました。

引退後は戦争で亡くなった球友の事など早稲田大学野球部の歴史の語り部としても活動されていました。稲門会の会合では、大隈重信公の口まねをされるといった気さくなお人柄で会員からも慕われていました。

謹んで大道さんのご冥福をお祈り申し上げます。

<編集後記> コロナ禍の下で中止に追い込まれてきた様々な行事・イベントが、この半年間は一定の制限がありつつも徐々に再開されてきました。直接会って行動を共にしたり会話することの楽しさを再認識された方も多かったと思います。今号ではその一端をご紹介しますことが出来て幸いに思います。

今年は、衛生面にも配慮しつつも、より多くの活動が実施され、会員の皆さんの親睦の輪が更に広がっていくことを切に願っています。

(原田敦夫記)

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事 元祖 嶋田家 住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>「露ろうアースカフェ」代表 山田 和子 (調布稲門会会長) 自宅 〒182-0035 東京都調布市上石原3-39-15 電話 042-488-0741 E-mail: kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp</p>	<p>林建設株式会社 取締役社長 林 清一 住所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-56-3 電話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>旭化成建材(株)指定工事店 外壁塗装・屋根塗装 株式会社住まいるスズキ 代表取締役 鈴木 光孝 〒182-0023 東京都調布市染地3-5-65 電話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UVプリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショップカード・ポストカード 記念誌・自費出版・アルバム等  株式会社 内田平和堂 ☎03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー (株)正直屋グループ 住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-7-10 電話 03-3853-1171 FAX 03-3853-1493 http://www.shojikiya.co.jp/</p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。 行政書士堀内綜合法務事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>舟久保法律事務所 弁護士 舟久保 賢一 住所 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-8 親和ビル5階 電話 03-6273-7917 FAX 03-6273-7918</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼 調布クレストンホテル 住所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布バルコ8~10F 電話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 http://www.crestonhotel.jp</p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問 元木 勇 自宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る 株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋沢 淳雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 http://www.okomekan.net/</p>	<p>～～個人の方も法人の方も～～ 明石会計事務所 税理士 明石 純一 〒182-0026 東京都調布市小島町2-46-5 電話 042-486-6545 FAX 042-486-6123 https://www.akashi-office.jp</p>